

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日  
令和6年8月28日（水）
- 2 確認箇所  
免震重要棟集中監視室（図1）
- 3 確認項目  
2号機使用済燃料プールのスキマサージタンクの水位低下事象に対する対応状況
- 4 確認結果の概要

8月9日に発生した2号機使用済燃料プールのスキマサージタンクの水位低下事象<sup>※</sup>に伴い、2号機使用済燃料プールの冷却設備を停止させることにより、従来行ってきた方法による使用済燃料プール水温の監視ができなくなっている。

この対応として、8月16日に使用済燃料プール南側に水温計が設置されたことからその状況を確認した。さらに、本事象を踏まえ、監視カメラによって監視していた使用済燃料プールの水位監視を強化するため、新たに水位計が設置されたことから、その状況を確認した。

また、東京電力担当者から使用済燃料プール水温、水位の監視状況等を聴取した。

- ・ 水温計、水位計の設置状況を、免震重要棟集中監視室にある端末を使って確認した。（写真1）
- ・ 確認時、使用済燃料プール水温、水位に異常は認められなかった。

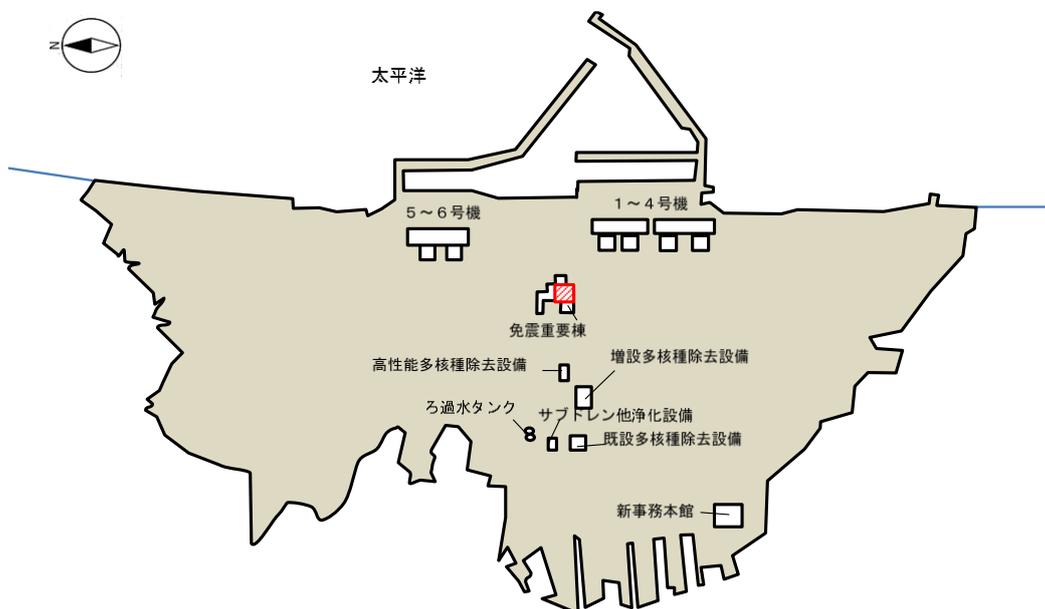
### 【東京電力から聴取した事項】

- ・ 水温計、水位計の確認を1時間に1回行っている。
- ・ 自然蒸発等によって使用済燃料プール水位が低下した際は、既設の配管を使って使用済燃料プールに水を補給する。
- ・ 使用済燃料プール水温、水位を監視するとともに、使用済燃料プールの循環冷却をいつでも実施できるように、使用済燃料プールの冷却設備を待機状態としている。想定を超えた温度上昇が確認された場合は、循環冷却を再開し、温度上昇を抑制する。

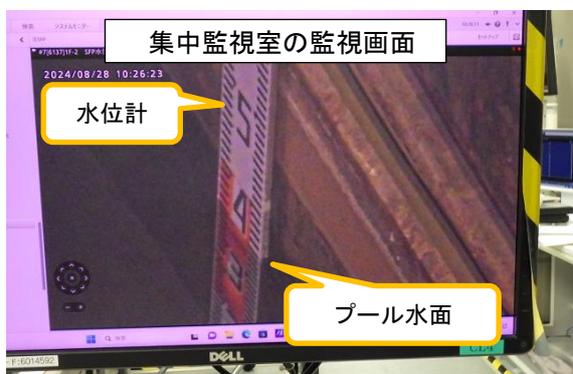
### ※ 2号機使用済燃料プールのスキマサージタンクの水位低下事象

8月9日午後1時5分、スキマサージタンク（使用済燃料プールが満水であることを確認するためのタンク）のレベルが低下していることを東京電力社員が確認。原因調査のため

め同日午後4時36分に循環冷却を停止。その後の調査で使用済燃料プール冷却浄化系のポンプと熱交換器を設置する部屋において水の漏えいが確認された。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)  
水位計の設置状況 (現在値: 約350mm)  
※350～450mm程度が運用範囲  
※本日、水の補給を実施予定。



(写真1-2)  
水温計の設置状況 (現在値: 約47℃)  
※運転上の制限値は65℃

- 5 プラント関連パラメータ確認  
各パラメータに異常な値は確認されなかった。